

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370102364		
法人名	社会福祉法人義風会		
事業所名	足守荘グループホーム		
所在地	岡山市北区下足守1898番地		
自己評価作成日	平成28年1月20日	評価結果市町村受理日	平成28年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障がい者生活支援センター		
所在地	岡山市北区津高628-1		
訪問調査日	平成 28 年 2 月 4 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人全体の理念である「生きがいの探求・生きがいの創造」を基本として、「①利用者様が主体となるグループホーム②利用者様が日々穏やかに過ごせるグループホーム③コミュニケーションに重点を置き心のケアが出来るグループホーム④利用者様が望まれることを把握し対応できるグループホーム⑤気軽にいろいろな方が立ち寄れるグループホーム」という5つの理念を掲げ、利用者様の個性を尊重しながら、安心・安楽な生活の中で、笑顔を引き出すことのできる「第二の我が家」と思っていたいただけるグループホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

狭い空間がアットホームな雰囲気に活かされており、いつも誰かがそばにいる安心感と常に職員が目が行き届く環境の中で穏やかな暮らしが窺える。職員一人ひとりが率先して得意分野を受け持ち、意見を言いやすい関係が築かれている。家族とも話しやすい関係ができており、これらの意見交換や情報共有を、利用者のケア、事業所運営の向上に活かされています。法人内にある医療機関や他事業所とも連携し、医療面においても、利用者、家族、職員も安心して安全に生活できています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体で取り組んでいる「地域づくり」を念頭に置き、「気軽に立ち寄れるグループホーム」を目指して、グループホームの基本理念を定期的な話し合いの場で確認している。職員全員で意識統一して実践できるよう努めている。	法人理念をもとに、職員でグループホームの心得を作成した。毎月の会議でその中からより強化するものを挙げ、実践している(管理者は職員一人ひとりが自分で考えることを指針とし、指導を行っている)。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の学生やボランティアの方々の来訪、喫茶コーナーへの参加、グループ内行事を通じて地域の方との交流機会を持っている。	地域に向け職員が講師となり、身近な題材で「そよ風講座」を開き、事業所へ足を運んでもらう機会を設けている。また、家族会による喫茶コーナーもあり、地域の方と交流を持つ場を提供している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生や職業体験の学生、理美容の来訪などを積極的に受け入れている。利用者も混乱した様子無く、生き生きと交流を楽しまれている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事計画や運営状況や評価結果を報告して意見を頂き、反省点や今後の課題として職員と話し合い、グループホームの質の向上に活かしている。地域包括や民生委員、家族会の方々の参加を得て開催している。	今年から民生委員の参加も得られた。また会議前に入居者と家族が一緒に行える行事を行うことで、家族が参加しやすいよう工夫している。また参加者家族より情報発信の方法を提案してもらい、実践につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的な空き状況の報告や事故報告を行っているが、今後もさらに理解協力が得られるように努力していきたい。	行政からの委託でオレンジカフェを開催したり、又ドッグセラピーの保険適用に向けて交渉を行うなど、相互に連携を取りながら積極的に協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間で勉強会を行い、利用者個々に合った適切な対応ができ、安全に過ごしてもらえるように取り組んでいる。言葉かけ全般にも全員で意識・注意するように心掛け、家族への連絡や話し合いも行っている。	家族や入居者のかかわりの深い関係者等と何を優先したいかをしっかり話し合い明確にしている。職員間でも研修や、実例から学ぶ機会を設け、「介指定基準」の正しい理解を実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切な言葉遣いや態度等は職員同士でその都度指摘し合える環境を作り、虐待になりにかねない不適切なケアに繋がらないように心掛けている。疑問や不安が生じた際はその場で意見交換を行い、職員のストレス軽減にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について勉強会を行い、必要時しっかりと支援できるように知識や仕組みを身に付けていくよう心掛けている。職員個々の意識を高めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所の支援方法や医療連携体制、出来ること、出来ないことを具体的に分かり易く説明して同意を得ている。利用者や家族の不安等、質問にもしっかりと説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	最低1回/月は家族と職員が連絡を取る機会を設けたり、面会時の会話から想いを推察したり、家族の声をしっかりと聴くようにしている。得た情報は職員全員で家族の希望や要望として認識し、サービスに反映させられるよう話し合っている。また、利用者とのコミュニケーションを図り、意向を把握できるように努めている。	入居者からは日々言動の中から意向の把握に努め、家族からは面会時だけでなく機会ある毎、近況報告を行い、意向の確認や要望がないかなど聞く機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時職員の意見が言いやすい雰囲気を作り、最低1回/月はホーム内ミーティングを開き、個々の考えや要望を話せる機会を設けている。また、意見や提案を得たら即時検討を行い、必要に応じて話し合っ運営に反映させている。	施設長や管理者とも話しやすい関係が築かれており、普段から意見交換が行われている。近々では、行事予算の幅や誕生日ケーキの予算アップについての話し合いが行われるなど反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の長所を認め、意欲的に業務に取り組めるような環境作りを行っている。一人ひとりの意向を確認しながら、資格取得への支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り外部での研修に参加し、研修後は報告書を提出してもらい、職員間に伝達を行っている。定期的な法人の研修やGH内の勉強会を行って職員の資質向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業所との交流を持ち、意見交換等を行ってサービスの質の向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用相談時には、ご本人・ご家族の意向を十分に聴き、生活状況や心身の状態、生活歴や趣味などを把握して、安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用相談時には、ご本人・ご家族の意向や要望、不安に思っておられることを十分に伺い、事業所として支援できることをお伝えして、ご理解を頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談者の状況や状態、想いを確認して、希望されるサービスの選択肢を提示し、必要であればケアマネージャーや他事業所につなげるなどして対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とのコミュニケーションを図り、信頼関係を築き、家族のような関係作りを行っている。教わることも多々あり、年長者に対する尊敬の気持ちを忘れないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時はもちろん、定期的に近況を報告している。特変のある場合はその都度連絡を入れて情報を共有し、提供するサービスに家族の意向を反映させられるよう努めている。また、家族との良い関係を築き、一緒に利用者を支援できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご兄弟に会いに行かれたり、喫茶コーナーを通して以前から交流のあった馴染みの方との時間を持ち、その人の生活習慣を大切にしている。施設における生活が、その人の在宅生活の延長、もしくは「第二の家庭」となるように努めている。	施設内で入居者同士居室への行き来がある。入居者の家族がホールで面会することが多く、他の入居者とも顔馴染みになっており、気軽に面会に来た家族に声を掛ける関係になっている。週に一度来られる歌ボランティアの方とも馴染みとなり、楽しみにされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性や利用者同士の関係を職員全員で把握し、ときには介入して、円滑な人間関係を保ち、楽しく穏やかに生活できるように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの生活状況や身体状況、習慣等の情報を提供して、新しい場所でも暮らしの継続性が断たれないように配慮している。また、本人・家族の許可を得て交流を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを図る中で、言葉として表出しない思いを汲み取るよう努力している。自己表現が困難な方の意向や想いも日々の援助の中で推察したり、随時、家族の希望・要望を取り入れて利用者本位のサービス提供に努めている。	日々のコミュニケーションの中で、否定の言葉を用いず、肯定的言葉かけを行い、共感することで入居者の思いをくみ取れるよう心掛けている。また行動からも感じ取れるように常に考え、検討するよう心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を知ることは援助していくうえで重要な要素であることを職員全員で認識し、プライバシーに配慮して本人・家族・知人の理解を得ながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムや心身の状態を把握し、出来ること、出来ないことを見極めてその人らしく生活できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者に変化がある度に家族に連絡・相談を行って、意向を反映させた計画書の作成・更新に努めている。1回/三か月のモニタリングは職員会議の場を活用して、職員全員で状況変化等の意見交換を行って、プランの作成に活かしている。	日々の体調や介護の経過記録、又、モニタリングを行い現状に即した介護計画に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りは口頭だけでなく、夜勤帯、午前、午後、レクリエーションの様子や特変時の記録を残し、職員皆が確認して情報共有できるように努めている。より良い記録作りを目指した意見交換も気軽に行われており、計画作成や処遇変更の参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急性や家族の状況に即して、臨機応変に受診やその他送迎の支援を行っている。また、希望があれば、家族に対し、移乗や排泄介助といった介護練習の機会を設けて外出を楽しめるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容、喫茶コーナーの利用やボランティアの協力を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、本人・家族が希望される医療機関を受診して頂いている。協力医の受診には職員が必ず付き添い、以前からのかかりつけ医へは家族の意向を伺いながら受診支援を行っている。利用者の日頃の状態が分かるように全員分記録にまとめている。	内科、歯科の往診の他、希望や必要があれば受診を行っている。協力医療機関がすぐそばにあり、宿直医もいるため、24時間すぐに連携をとれる環境にあり適切な医療支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、日頃の健康管理や医療面での相談を行って、助言、対応をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、退院時には医療機関との情報交換を行い、家族との連絡も密に取って共同しながらスムーズな退院が出来るように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度の介護を要する状況となった場合の本人・家族の意向を確認し、事業所で行える支援について説明して、理解してもらい、医療機関とも連携を図っている。住み慣れた環境での最期を望まれる方には、家族と本人の意向を伺い、ともに終末期の計画書を作成し、安心して最期を迎えられるよう支援している。随時職員間でもカンファレンスを行い、不安や疑問の共有と解消に努め、ストレスの軽減に努めている。	協力医から看取りに対する思いや心構えの指導を受け、職員で話し合い看取りを行うことを決め、協力体制が整い去年から4件の実績がある(家族から感激の言葉あり)。看取り後も職員で話し合い、今後のケアへ繋げていける様取り組んでいる。	看取りを始めて職員の負担も大きいと思いますが、今後も入居者、家族が安心して最期を迎えられるような支援をされていくことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置については勉強会を行っているが、今後も各職員の意識を高めて知識や技術の習得に努めていく必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火器の使い方や避難経路を定期的に点検・確認している。建物内の事業所である特別養護老人ホームとの合同避難訓練を行い、緊急時に備えた体制を整えている。	法人合同の訓練以外にも当事業所のみでの避難についても確認し、時々振り返りもを行っている。地域の他事業所の避難訓練にも参加し、消防署員に消火の仕方等を学んでいる。	建物の3階であることもあり、利用者や職員が安全に避難できるよう、地域の方や家族会とも協力された避難訓練や体制を整えられることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への声かけや援助はその場面に合わせ、本人の意向やプライバシーを尊重して行っている。不適切な時はその都度職員同士で気軽に指摘し合える関係を作っている。	馴染みの関係からプライバシーを損ねかねない言葉や声掛けをする場面がある時は、職員同士で注意し合い、日々のケアに努めている。入居者のケアや言葉かけについて、常に気を配り考えることができている。	現在の職員同士の良い関係を保たれ、今後も入居者の尊厳やプライバシーに配慮された支援をされていくことを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの個性を大切にコミュニケーションがとれるよう工夫して、要望や希望が言いやすいように接している。本人が選択や決定をしやすい声かけを行い、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活リズムの中で、個々の意見や習慣、体調などを考慮しながら、その人のペースで過ごせるように支援している。利用者中心のペースで過ごせるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな洋服を選んで着ておられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会にはその方の希望を聞いて献立を考えている。材料を混ぜて頂いたり、後片付けを手伝ってもらっている。個々に合った食べやすい形態で提供している。	食事用のエプロンに着替えて食事の雰囲気を作っている。又、安全で美味しく食事ができる様心掛けており、行事等では入居者と何がいいかを話し合い、楽しく食事ができるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスを考えた食事を提供している。安全に摂取できるようにその時の状態に合わせて、見守り・工夫を行っている。水分・食事摂取量を記録し、その方に適切な量やバランスを考えながら食生活を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前うがいをしてもらい、毎食後声かけ・一部介助を行って歯磨き、うがいをもらっている。義歯・部分義歯の方は夕食後洗浄剤で清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムに合わせ、トイレ誘導を行い、声かけをしている。下着やパット等も個々に合ったものを使用している。プライバシーを配慮しながら、本人からの訴えとは別に定時でも下着の確認を行い、清潔保持のための支援を行っている。	排泄チェック表の導入や生活リズムを整えることで、失敗の回数を減らすことができている。職員が入居者に密にかかわることで、誘導やパッド交換がスムーズに行え、清潔保持ができ、不穩の軽減にもつなげられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄リズムや排せつ物の状態を把握し、排便チェック表を付けて確認している。朝夕の体操や水分、食べ物での調整も行うが、調整しきれない場合には状態を医師や看護師に報告・相談して対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調観察をしながら、安心して入浴が出来るようにその方に適した声かけを行っている。無理強いをしないように、拒否のある方にも声かけや誘導の工夫をして、本人が気持ちよく入浴できるよう努力している。	一対一でゆっくりと話ができる時間でもあり、楽しんで入浴してもらえるように心掛けている。本人の状態等に合わせて入浴日の変更も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に日中はレクや体操、手作業をもらい、活動的に過ごせるように生活リズムを整えているが、強制ではなく個人の意思や希望を尊重して自分のペースで過ごしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書をファイルして職員全員で確認できるようにしている。飲み忘れや誤薬防止のために、複数の職員の目を通すようにし、内服直前には日付と名前の読み上げを行うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意なことや好きなことを把握して、楽しんで取り組んで頂けるように工夫している。個別にしたいことを聴いて行うこともある。家事手伝いも意思を確認しながら無理の無いように役割として行ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭の無い施設ではあるが、屋上でのベランダ菜園を行ったり、日光浴を楽しむために屋外へ出たり、季節の外出行事や、施設のお祭りなどに参加している。外出先には可能な限り利用者の希望を反映させており、家族にも働きかけて、一緒に出掛けられる機会を設けている。また、行事を催す際は運営推進会議などで事前に外部の方にも告知し、ご参加・ご協力を頂けるよう心掛けている。	入居者の介護度が高くなり、長時間の外出は体力的に難しく、季節や行事ごとの外出は行っていますが日々の外出は玄関先や屋上で日向ぼっこを行っています。屋上で家族とボール投げをしたり屋上の菜園の野菜を家族と一緒に収穫したりしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時にレジで本人にお金を渡し、職員が付き添って支払ってもらうこともあるが、ほとんどの方は一人での金銭管理が困難になっている。本人の嗜好や意向に応じてお金を使用する際には、希望を伺った際家族に確認し、了承を得て物品を購入し、出納帳に記入して家族にも確認してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎食前うがいをしてもらい、毎食後声かけ・一部介助を行って歯磨き、うがいをしてもらっている。義歯・部分義歯の方は夕食後洗浄剤で清潔を保っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下に月ごとの季節感あふれる壁画を皆で作成して飾っている。こまめに清掃して清潔感を大切に、落ち着いてくつろげるように家具の配置などを工夫している。室温・湿度・換気にも気を配っている。	行事の写真や、季節感ある装飾などで温かみのある共用空間作りをしている。また入居者がわかりやすいようトイレを絵で表示するなどの工夫や、食事後の清掃等、清潔保持にも努められている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空間的に限度があるが、体調や気分により、ソファの配置を工夫したり、座席の固定にはこだわらず、人間関係や本人の意向をもとに落ち着ける居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には自分で作った季節のリースや個々の好きな物を飾り、なじみの道具やお仏壇、観葉植物などをおき、本人・家族の意向を取り入れた、心地よく過ごせる空間を作っている。ご自身の作品や、出窓に似せた壁画で空間を広く演出する工夫も行い、少しでも過ごしやすい居室になるよう努力している。	仏壇や観葉植物、自作品、また窓のない居室に壁画の演出を行う等、入居者が過ごしやすい居室作りがされており工夫が窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの認識力によって、声かけをしたり、分かり易い目印を作成するなど混乱しないように工夫している。居室内は安全に過ごせるようその都度整理している。		